

## (9) 高齢者の「その人らしい暮らし」の支援に関する先行研究の検討

川崎医療福祉大学大学院 医療福祉学専攻 博士課程 ○牧田 幸文

川崎医療福祉大学 医療福祉学科 飯田 淳子

川崎医療福祉大学 医療福祉学科 長崎 和則

## 【要旨】

本報告では、地域密着型サービスのめざす、高齢者の「その人らしい暮らし」の支援に関する先行研究を検討する。特に、地域密着型サービスや小規模多機能型居宅介護サービスについて、利用者の視点から考察されているかという点に着目する。先行研究を1) コミュニティ・ケアの視点からの研究、2) グループホーム等の取り組みに関する事例研究、3) 要介護者を対象とした調査研究の3つに分類し、レビューを行う。

コミュニティ・ケアの研究では、地域の人々との連携やボランティアを強調した内容の研究が多い。しかし地域住民が積極的に支援に関わることは簡単でない中、地域住民が日常生活で関わることを可能にする取り組みが必要である。

グループホーム等の取り組みに関する事例研究では、各事業所の個別の対応の特徴を明らかにしたものや、利用者の状態からサービスの質を検討したものがあがるが、後者は利用者のニーズからの検討ではない。また、サービスの評価基準と、各事業所が評

価基準に沿ったサービスを提供しているかについて分析した研究がある。こうした研究は、基準化されたサービスに焦点を当てているが、「その人らしい暮らし」の支援がどの程度標準化できるかは疑問である。また小規模な生活単位、介護者の質などの要因がケアの質を上げると提案しているが、これらもサービス提供者側の視点に基づいた研究である。

一方、要介護者を対象とした調査は最近になって始まったが、技法や方法論が確立されておらず、調査数は少ない。実施された調査も利用者の現状を問う内容であり、「その人らしい暮らし」のためにどのようなサービスが必要であるのかについて示しているものではない。

「その人らしい暮らし」の支援のあり方は、サービス提供側からの視点のみでなく、利用者の過去や現在の生活、家族・介護者・親しい人々との関係等に基づき、個別に検討すべきではないだろうか。今後、利用者に関心をおいた研究を蓄積していく必要がある。